４　支援活動の報告
（八女市派遣職員）

4　支援活動の報告（八女市派遣職員）

平成 24 年度に八女市に派遣された本市職員による活動報告（3 名）

写真位置：②①③

（派遣先）	（氏名）	（頁）
◆八女市派遣職員		
①八女市建設経済部土木災害復旧室（24/9/10～25/3/31）	丹生 直伸（事務）	166
②八女市建設経済部土木災害復旧室（24/9/10～25/1/31）	野見山 豊義（土木）	170
③八女市建設経済部土木災害復旧室（25/1/1～25/3/31）	今村 優（土木）	172

災害復旧業務に携わって

派遣先　八女市建設経済部土木災害復旧室
所属　危機管理室危機管理課
　　九州北部豪雨災害支援担当係長
氏名　丹生　直伸
活動期間　平成 24 年 9 月 10 日～平成 25 年 3 月 31 日
支援活動　災害復旧支援業務

■派遣前の心境

九州北部豪雨から約２か月が過ぎた平成２４年９月、災害復旧に関する業務を支援するため、市職員（技術）１名と一緒に、私は八女市に派遣された。

「支援」と言っても、私は事務職で、災害復旧業務の経験はない。八女市に行ったこともなく、更には、１０年振りに一人暮らし（単身赴任）をしなければいけない。正直に言って、派遣前は不安でいっぱいだった。

■災害箇所を巡る

派遣初日、八女市職員と一緒に、災害箇所を見て回った。

豪雨災害のことは、テレビや新聞で連日報道され、少しは知っているつもりだったが、その箇所数の多さ、被害の程度に改めて驚かされた。

山は土砂崩れを起こし、何百本もの木々が倒れている。河川には流木が溢れ、河川沿いの道路、家、田畑が無残に壊れている。そのような箇所が、少し車を走らせただけで次から次へと現れる。災害から２か月経っていたが、その傷痕はいまだ生々しく残っていた。

【災害当日の様子】

【八女市黒木町の土砂崩れ】

【八女市の被害状況】

人的被害：死者２名、負傷者１０名

建物被害：床上、床下浸水等が１，７６０棟（うち住家が約７割）

【八女市について】

平成１８年に上陽町、平成２２年に黒木町、立花町、星野村、矢部村を編入合併。市の面積は県内２位で、ほぼ北九州市と同じ。人口は約６万８千人（市職員は約６００人）。

■配属先

私は、土木災害復旧室という部署に配属された。

復旧室は、河川、道路等の公共土木災害、農地・農業用施設災害、林道災害の復旧を進めるために創設された組織である。福岡県や近隣自治体からの派遣職員が徐々に増えていき、職員数は総勢で５０人以上となった。

職員数が多いため、本庁ではなく、「八女市担い手研修センター」という建物を使って業務を行った。

【復旧室の職員構成（１２月時点）】

・八女市職員　　３２人

・派遣職員　　福岡県６人

　　北九州市、福岡市、大牟田市　各２名

　　筑後市、大川市、大野城市　　各１名

・任期付・嘱託・臨時職員　計５名

■土木災害復旧室の業務

復旧室の業務は、時期的に大きく分けて２つあった。１つ目は、９月～１月末までの国の査定に関する業務で、２つ目は２月～３月の復旧工事の実施に向けた業務である。特に前者は、①査定申請する災害箇所の決定、杭打ち②コンサルが作成した復旧工事設計書のチェック・修正③査定受検のための書類作成等、業務量が膨大で、技術職員はその対応に追われた。査定箇所は、復旧室全体で１，１３６箇所にも上った。

【国の査定について】

・被災箇所・復旧工事額・工法等を確認して、国が復旧工事費の国庫補助金を決める制度。

・机上で行うこともあるが、多くは査定官（国土交通者又は農林水産省職員）と立会官（財務省職員）を査定現場に案内し、その場で受検する。

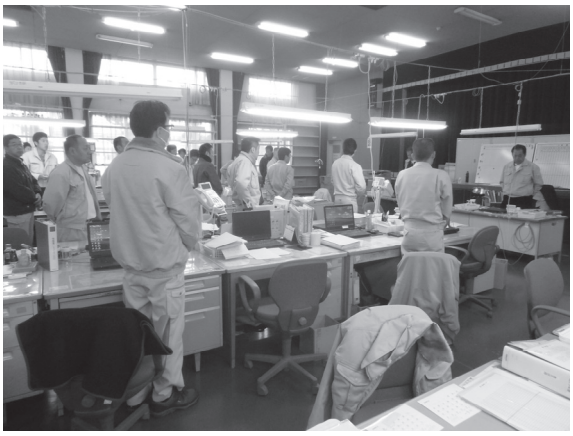
・査定官と立会官は、現場を確認し、八女市が提出した復旧工事の設計書に問題がないかをチェックする。

■私の担当業務

やはりメインは事務仕事で、特に大変だったのが、測量設計の業務委託や農業用水路の応急工事等、契約関係の事務である。業者に見積書をもらい、契約書を作る。業務の完了後は、検査調書を作って、委託料や工事費を支払う。業務内容としては特に難しくないが、件数が非常に多かったため(１００社以上)、かなり時間を取られた。その他、補助金申請や予算作成等の事務仕事があった。

一方で、事務以外の仕事も多く、ヘルメットと長靴着用で災害現場の測量に行くこともあった。国の査定にも何度も同行し、査定官に災害箇所の長さを示すため、リボンテープ（測量道具）を引っ張ったりした。このような現場の仕事は、事務職では中々経験できないため、とても新鮮だった。

また、働きやすい職場環境を作るため、事務所整理（机、電灯の設置等)、派遣職員のお世話（名刺作成や時間外勤務の集計等)、大量に出るダンボールや機密文書のゴミ捨て等、他の事務職員と一緒に、雑務的な仕事も色々行った。



【毎日の朝礼】

【測量の様子：この中に私もいます】

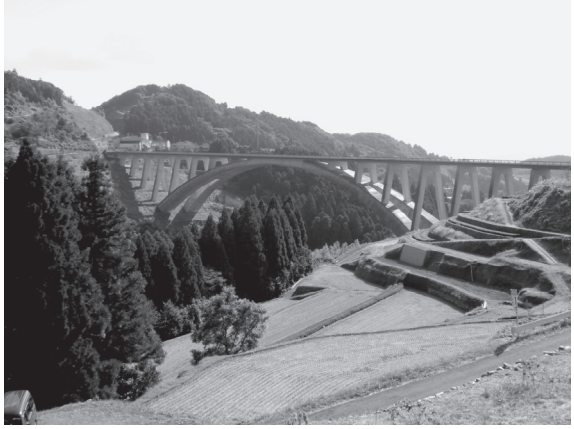
■派遣期間を振り返って

派遣期間中、復旧室の最も大きな目標は、「査定を終わらせること」であった。

９月から１月末までの間、派遣職員を含めた職員全員が、ほぼ毎日残業していた。特に査定日程が厳しくなった１２月、１月は、事務職でも２４時頃まで残業していたし、特に技術職の方は、午前２時頃まで働き、土日、正月も勤務するような状態だった。

そのような状況だったため、大きな問題もなく、ほぼ予定どおり査定受検を終えたときは、本当に嬉しかった。このときの達成感と祭りが終わったような寂しさは、ずっと忘れないだろう。

今振り返ると、査定の準備で大変だった頃のことがとても懐かしい。同じ係の職員が皆とても親切で、仕事は忙しかったが、苦労したという気がしない。忙しい合間を縫って、市内の名所やおいしい店に案内してもらう等、仕事以外でも楽しいことが沢山あった。



【朧大橋（八女市上陽町）】

【八女市役所入口】

■八女市の復旧を願って

３月から工事も始まり、八女市の復旧は、いよいよその第一歩を踏み出し始めた。復旧工事は３年かけて実施することになるが、３年後には、全ての災害個所が復旧しているかと思うと今からその時が楽しみである。

最後になりますが、このような派遣の機会を与えられたことに心から感謝いたします。当初は不安でいっぱいでしたが、今となっては、派遣を通して多くの方に出会えたこと、八女市の復旧に微力ながら携われたことを嬉しく思います。

お世話になった皆さん、本当にありがとうございました。

八女市での災害派遣を通して

派遣先　八女市建設経済部土木災害復旧室
所属　建築都市局区画整理課
氏名　野見山 豊義
活動期間　平成 24 年 9 月 10 日～平成 25 年 1 月 31 日
支援活動　災害復旧支援業務

平成２５年７月１１日から７月１７日に発生した梅雨前線豪雨災害により、八女市では７５０mmもの降水量を記録し河川の氾濫や土石流が発生し八女市では２名（星野村１名、黒木町１名）の方の人命が奪われた。

平成２４年８月末に九州北部豪雨災害の復旧支援に来てほしいとの要請があり、約１０日後の９月１０日に職員を派遣することとなった。北九州市で被災地に派遣されるのは６名で、その内八女市に派遣されるのは私と丹生係長の２人であった。災害査定の経験もなく、生まれて初めて行く八女市に当初約４ヶ月の派遣期間、しかも技術職員として派遣されるのは私だけでしたのでとても不安でした。

前日入りし県南の方面に向かう最中、辺りの景色は穏やかな風景が続き被災があったようにはとても感じられませんでした。

派遣初日、八女市役所の本庁で辞令交付を受け、さっそく配属先の土木災害復旧室に向かいました。復旧室では比較的穏やかな雰囲気で自分が想像していたものとはまったく違っていました。配属の挨拶の後、八女市の職員が９月１０日付けで配属された５人（北九州市２人、福岡県３人）を被災現場に案内するということで、１日かけて現場に連れて行ってもらいました。

現地での業務は主に災害査定の申請で、現場での業務（査定杭打、被災箇所の復旧延長のリボンテープ張り、設計コンサルタントと被災現場に行き復旧工法の検討と起終点の位置決め）と、事務所内での業務（設計コンサルタントと復旧図面についてのやりとり、査定設計書の作成）でした。

派遣された当初は、担当はなくもっぱら査定の際のリボンテープを張ったり、査定杭を打ったりする作業を行いました。その後、八女市では橋梁が１３橋落橋しているので、その査定申請を同じ派遣で来ている福岡市の人と二人で半分ずつやることとなりました。

橋の申請は、まず国の事前協議が必要であり、作成した資料で国土交通省の本省と、復旧方法の比較形式の検討や復旧工法や経済性についての協議を数回重ねて行い、その後に査定申請となります。

申請が必要な１３橋のうち、ほとんどの橋梁が片方の橋台だけが残っているため、本省との事前協議では、残っている橋梁を使って欲しいとのことでした。

そこで、八女市の担当者から「今残っている橋台をできるだけ使う方法を検討して欲しい。」との指示がありました。それを経済的且つ構造的に証明する資料を作成することが困難な作業でした。

今回の活動を通して印象に残ったことは、八女市職員の方や地域住民の方の復興しようとする強い思いでした。八女市の旧八女市、旧立花町、旧上陽町、旧黒木町、旧星野村、旧矢部村の被災箇所をほぼ一人で担当し約１００件近い箇所の申請をするために連日深夜１時や２時まで残業していました。

それでも、旧黒木町や旧星野村のような被災規模の大きいところは１月の中旬が査定の最終申請でありながら、１２月になってもまだコンサルタントから図面や数量計算書が上がっていなかったため、そこから各々５件ずつくらいで振り分けていきました。そのくらい膨大な量の被災箇所でした。

住民の方にしても河川沿いに自分の田があり、その田が被災しているのですがなかなか復旧が進まないため、自分で石積みを積んで復旧していました。そういった姿勢を目の当たりにすると意識の違いを強く感じました。

八女市が被災している状況を見ていると、まれにみる雨の量だったために被災したとも言えるのですが、護岸の整備がされていない箇所（自然護岸）がやはり被災しているようにも感じられました。

北九州市でもそういった箇所があれば被害につながる恐れがあります。

防災のためのハード整備の必要性を改めて感じました。

八女市における災害派遣業務について

派遣先　　八女市建設経済部土木災害復旧室
所属　　建築都市局折尾総合整備事務所
氏名　　今村　優
活動期間　　平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日
支援活動　　災害復旧支援業務

【九州北部豪雨災害概要】

九州北部豪雨災害（平成２４年７月１１日～１７日）
最大２４時間雨量：５６６㎜
最大時間雨量　　：９６㎜
被災個所数　　：約１１００個所（公共土木施設・農地農業用施設・林道施設）

【現地業務】

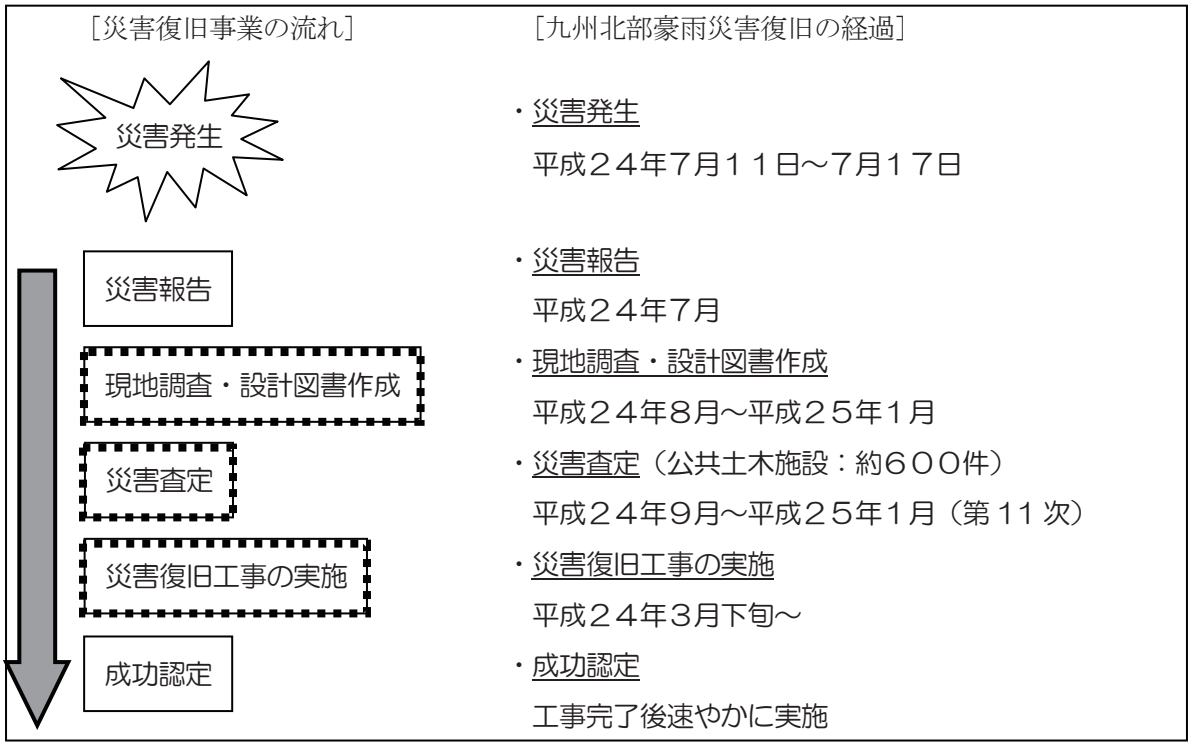
■公共土木施設災害復旧事業とは

台風、豪雨、地震などの異常な天然現象により、河川の氾濫、道路の寸断などが起こると、日常生活に重大な影響を及ぼします。

このため、これら被害を受けた河川や道路などの公共土木施設について「公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法」に基づき早期復旧を図る事業です。

■災害復旧事業の流れ

災害の発生から災害復旧事業の完成に至るまでの主な事務の流れを図で表すと、次のようになります。　※このうち、派遣期間中に携わった業務は　　です。



■現地業務

派遣時（平成２５年１月）は、既に災害発生から約半年経過していたため、災害査定も終わりに近づいており、災害査定後の工事発注が主な業務となりました。

１月の業務としては、第１０次・１１次査定に向けた現地調査及び設計図書の作成補助業務、災害査定時の現地測量班として業務に携わりました。

２月及び３月の業務としては、災害査定が全て完了したことから、早期復旧に向け工事の発注準備に取り組みました。

【現地での活動経過】

■活動経過

［１月］

・現地調査及び設計図書の作成補助業務

業務内容：災害査定の受検に向けて、復旧箇所における起終点の杭打ちや写真の撮影、査定設計書に必要となる設計書・図面・数量計算書・写真等の作成補助を行いました。

（現地調査状況：大牟田川にて）

（設計図書の作成補助：復旧室にて）

・災害査定時の現地測量班

業務内容：災害査定受検の際には、現地にて査定官に対して復旧延長等を説明する必要があります。このため、起終点にポールを持って立ち復旧延長をテープで測定しました。

（災害査定：中渡瀬川にて）

（災害査定：大牟田川にて）

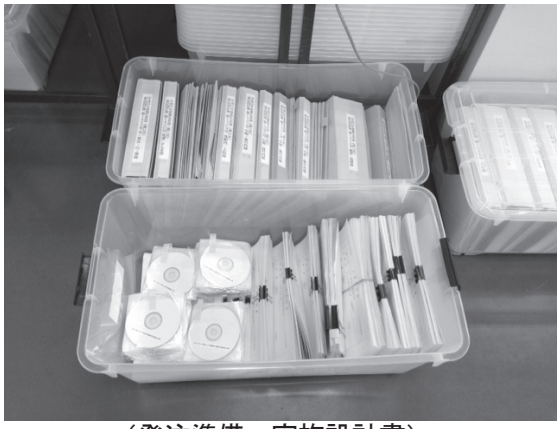
※災害査定において復旧事業費が決定することから、非常に重要な業務となります。

［２月］［３月］

・工事の発注準備

業務内容：早期復旧に向けて、災害査定完了後は、現地を再確認し、実施図面・数量計算書・実施設計書の作成を行いました。

（工事発注準備：査定決定内容の確認）



（発注準備：実施設計書）

※被災箇所が多いため、工事発注の優先順位を付けるとともに、１０箇所程度を１つにまとめて発注しています。

【これからの業務のために必要になると思われる点】

これまでの経験を経験値として蓄積し、これからの業務に活かすため、災害査定の進め方や資料、工事発注の手順等についてのマニュアルを作成し、短期派遣職員も即戦力として活動できるような仕組みを整えておく必要があると思いました。

【活動を通して印象に残ったこと】

今回の活動を通して、災害復旧事業を進めるにあたっては、人と人の絆が大切であるということが印象に残りました。

八女市職員の方々が中心となり災害復旧事業に取り組んでいますが、そこには、今回派遣された職員（北九州市・福岡県・福岡市・大野城市・筑後市・大川市・大牟田市）が同じ思いで作業を進めています。また、険しい山林や河川を測量していただいたコンサルタントの方々、早期復旧に全面的に支援をいただいている地域住民の方々など、災害復旧とは、正に人の輪によって成し遂げられるものであると強く感じました。

【本市の防災に必要となること】

道路は、車や人が通るためだけの目的ではなく、雨を適切に川まで導く役割も担っています。このため、八女市の職員の方々は日頃から地域活動として、道路や河川の清掃等を行っているとのことでした。災害発生を未然に防ぐためには、このように、日頃から公共施設等に対して維持管理の意識を持つことが大切であるのではないでしょうか。

【災害復旧とともに】

八女市は農林業などの第１次産業が盛んな地域です。

このため、多くの農地も被災している状況です。

災害復旧事業とは公共施設の復旧のみならず、市民の経済活動にも大きく影響するものです。短期間の派遣でしたが、災害復旧とともに、一日も早く美しい田園風景が蘇ることを願っています。

【被災状況写真（九州北部豪雨災害）】